

都道府県名

埼玉県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	狭山市立入間中学校				
学 年	1年	2年	3年	計	教員数
学級数	3	3	3	9	20
生徒数	94	100	102	296	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図るためのわかる授業の創造

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

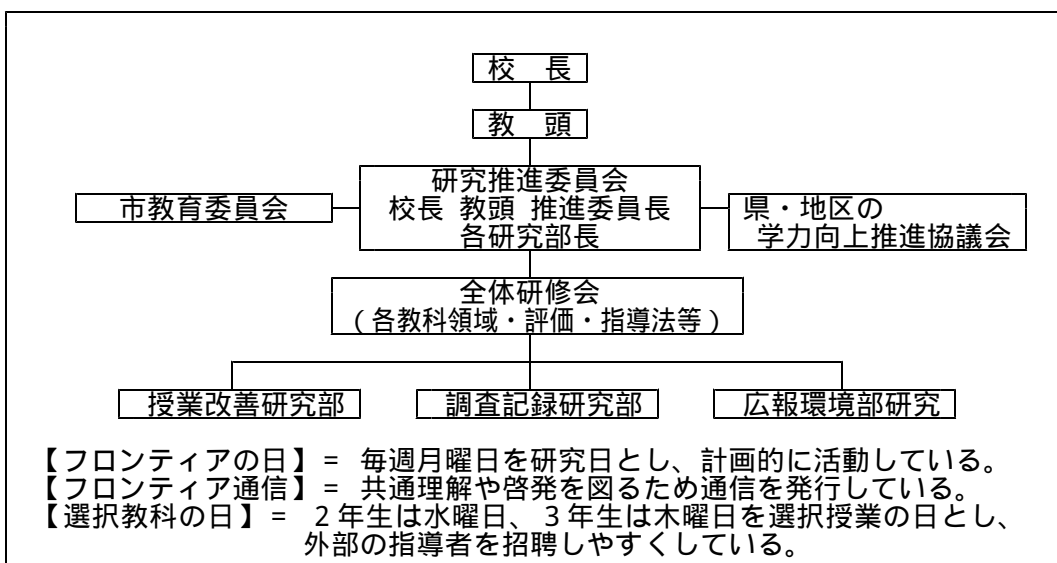
- * 個に応じた選択教科の指導。
 - ・ 2.3年生（数学）
既習の学習内容の定着に差が大きい教科であるため。
 - ・ 2.3年生（国語）・3年生（英語）
学校として、表現力の育成に努めているため。
 - ・ 3年生（理科）
興味関心が高い生徒が多く、一層学習に対する意欲を高めるため。
- * 必修教科における少人数指導
 - ・ 3年生（数学）
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、これまでの研究成果を生かし、幅の広い研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 選択教科における個に応じた指導の研究 研究の見通し 思考力、判断力以前の狭義の知識が十分に定着していない現状を踏まえ、まずは学習した内容をしっかり定着させることである。そのために、主として「選択教科」を活用して、補充的な学習や発展的な学習を行い、生徒一人一人に分かる喜びを与え学習意欲を育てる。</p> <p>研究の内容・方法 補充・発展に応じたワークシート等の教材開発 少人数指導、個別指導等、個に応じた指導体制の工夫 コース別およびコースの相互性とそれに伴う評価のあり方</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 必修教科における個に応じた指導の研究 研究の見通し（仮説） きめ細かな指導を充実し、わかる授業を工夫することにより、基礎・基本の確実な定着が図られ、「確かな学力」を身に付けさせることができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 学習への意欲・関心を抱かせる、課題提示の工夫 基礎的・基本的な内容を定着させる場の工夫 自らの考えを持ち、判断や表現をしていく場の工夫 少人数指導等、個々の生徒への対応に関する指導体制のあり方</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

右の表1は、3年生選択数学スキルコースの生徒へのアンケート結果である。

ほとんどの生徒は、「学習意欲が出てきた」「充実した学習ができた」「分かるようになった」などの回答をしている。コースについても自分にあっていると答えている。他教科についても、ほぼ同様な結果であった。

また、生徒の感想を見ても「少人数で詳しく授業を進めてくれたので、とても分かりやすく集中して取り組めた」「普通の授業でやるより詳しくやってくれとても勉強しやすい」などが多かった。

表2は、3年生英語期末テストの一人一人の生徒の1学期と2学期の素点の比較である。

問題の難易度は変えなかったが、平均点は53.9点から65.8点に上がっている。特に、中間層の生徒の伸びが大きい。

この結果が、少人数指導の成果とは一概には言えないが、生徒の学習への取り組みが充実してきた結果であると考えられる。

また、生徒・保護者・教師へのアンケート結果等より、次のような成果が見られた。

- 生徒の学習意欲が高まり、授業規律の改善が見られる。
- 進んで挙手し、質問や発表する生徒が増えている。
- 自らの力で問題を解決しようとする生徒が増えている。
- 保護者の学校への理解が深まっている。

表1 (選択数学スキル生徒へのアンケート結果)

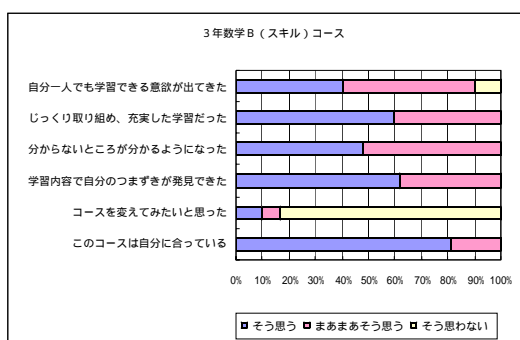
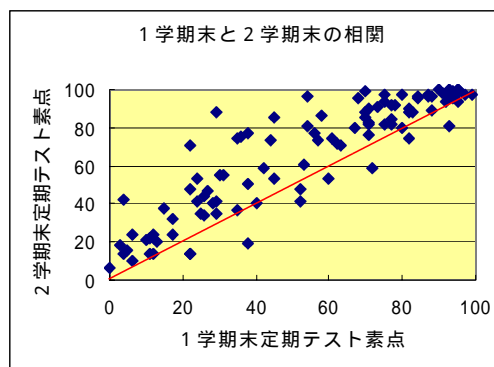


表2 (3年生英語期末テスト1.2学期の比較)



2. 今後の課題

今年度は、選択教科を中心に補充的・発展的な学習についての実践研究を行ってきた。「学び直しの学習」に関する内容についての研究が多かったため、関心・意欲にかかわる内容や発展的な内容の教材開発、指導法の工夫をさらに進める必要がある。

加えて、来年度は必修教科での取り組みや、評価のあり方についての研究を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を定着させていく計画である。

特に、次のような課題がある。

必修教科におけるわかる授業の創造

・少人数指導など、個々の生徒への対応に関する指導体制のあり方

・学習への意欲を抱かせる課題提示の工夫や課題別学習のあり方

学習に生きて働く評価の工夫

・評価を適切に位置づけた指導計画の工夫

・生徒の学習意欲を高める評価のあり方（指導と評価の一体化）

選択教科のさらなる充実

教育活動全体を通じた確かな学力の定着を図る工夫

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査

本校生徒の学力の把握をするため、全学年で実施している。

保護者の意識調査

保護者の学習や学校に対する意識を把握するため、全保護者に対してアンケート調査を5月に実施した。

生徒の実態調査

生徒の家庭での生活状況や勉強への意識を把握するため、全学年で5月に実施した。

定期テストの比較

生徒の学習状況の変化を把握したり、研究の成果を確認するため必要に応じて実施している。

実力テスト

生徒の学力とその変化を把握するため、3年生2回実施している。来年度は全学年で実施する予定である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

ホームページを作成公開し、研究内容を紹介している。

学力向上推進協議会において実践発表し、地区の先生方へ説明した。

授業研究会（英語科ほか）を実施し、市内の先生方に公開した。

学校公開日を計画し、保護者や地域の方々へ公開した。

学校便りにより、保護者や地域への研究内容を説明している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無